

法恩寺山におけるヤマトキソウの生育状況

多田 雅充・櫻井知栄子*

Present situation of *Pogonia minor* in Mt. Hoonji.

Masamitsu TADA and Chieko SAKURAI*

(要旨) 勝山市法恩寺山でヤマトキソウの生育状況を調査した。開花個体と非着花個体を合わせて106個体が確認された。福井県では、これまでに本調査地を含む2地点のみでしか確認情報がなく、本種を保全する上で継続的な調査が必要と考えられる。

キーワード：ヤマトキソウ，絶滅危惧種，法恩寺山

1. はじめに

ヤマトキソウ *Pogonia minor* はラン科トキソウ属に属し、冷温帯の日当たりのよい草地に生える多年草である。高さ10~20cmで、6~8月に淡紅色の花を1つ茎頂につける(図1)。北海道、本州、四国、九州に広く分布し(遊川, 2015)、福井県の隣府県である石川県、岐阜県、滋賀県、京都府でも記録されている。また、分布する多くの都道府県で絶滅危惧種に選定されている(NPO法人 野生動物調査協会ら, jpnrd.com 2021年1月閲覧)。

本県では、2017年7月12日に幸谷昭子氏によって勝山市法恩寺山(1,357m)で初めて確認され、さらに同氏により同市取立山(1,307m)の標高1100m付近でも確認された(未発表)。その後2018年7月22日に筆者の一人櫻井は、法恩寺山での生育を再確認した。そこで、筆者らは本種の開花時期に合わせて法恩寺山の自生地において生育状況を調査したので報告する。

2. 調査地と調査方法

調査は2020年7月17日に行った。調査した場所は、勝山市東部に位置する法恩寺山の標高940m付近である(図2)。林道法恩寺線に沿った山側法面に生育が確認されたため、林道沿いの幅2m、長さ130mを調査範囲として選び、GPS(GARMIN社製Oregon750TJ)で位置を測位して記録した。

生育状況を観察するとともに、調査範囲を幅2m、長さ10mに区分しながら個体をマーキングして個体数を調べた。本種は横走る根から不定芽が生じることから(遊川, 2015)、複数の花茎が地下部で連結して同一個体である可能性があるが、本調査では個々の花



図1. 法恩寺山で観察されたヤマトキソウ。

Fig.1. *Pogonia minor* observed in Mt.Hoonji.



図2. 調査した法恩寺山の位置図。

Fig.2. map of Mt.Hoonji.

*福井県自然観察指導員の会

*Fukui Nature Conservation Educator Association

表1. 確認された個体数.

Table 1. population of *Pogonia minor*.

区分 (m)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130
開花個体	3	21	2	12	18	1	2	4	6	0	8	3	2	
非着花個体	0	5	0	5	4	1	0	4	3	0	2	0	0	

茎をそれぞれ独立した個体と見なした。また、開花している個体と着花の痕跡がない非着花個体を区別するとともに、調査範囲に生育する植物の種名を記録した。

3. 結果

確認されたのは、開花個体が82、非着花個体が24であった(表1)。

本種以外で調査範囲に生育していた植物は、モウセンゴケ *Drosera rotundifolia*, ノギラン *Metanarthecium luteoviride*, アカモノ *Gaultheria adenothrix*, シシガシラ *Struthiopteris niponica*, スギナ *Equisetum arvense*, ゼンマイ *Osmunda japonica*, コアジサイ *Hydrangea hirta*, ミズナラ *Quercus crispula*, ハナヒリノキ *Eubotryoides grayana*, タニウツギ *Weigela hortensis*, ニガナ *Ixeridium dentatum* subsp. *dentatum*, フキ *Petasites japonicus* であった。調査範囲は斜面に浸み出した水で維持される湿潤な場所であり、木本のコアジサイ、ミズナラ、ハナヒリノキ、タニウツギは、どれも個体サイズが小さく貧栄養な状態と見られた。

4. 考察

ヤマトキシソウは植物体が小さい上に、花期にも花がほとんど閉じた状態で目立たないため、これまで本県で見落とされてきたものと思われる。個体数が少なく、確認されている生育地も2カ所のみであるため、標本は採取せず写真記録のみにとどめた。また、本種の保全上の理由から生育地の情報は最小限にとどめた。

今回の調査地は、林道の法面であり本種にとって安定した生育地とは考えにくい。斜面から浸みだす水量の変化や遷移の進行などが生育を脅かす要因になる可能性がある。また、林道法面は定期的に草刈りされ、人為的攪乱の程度が光条件を左右している。そのため管理放棄されることになれば個体群は大きな影響を受けると考えられる。今後は生育環境と個体数の変化をモニタリングしながら管理手法の検討を行い、本種を保全していくことが求められる。

引用文献

- 遊川知久, 2015, ラン科 ORCHIDACEAE, 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編), 改訂新版日本の野生植物1, 平凡社, p. 225.
NPO法人 野生動物調査協会・NPO法人 Envision環境保全事務所, “ヤマトキシソウ”, 日本のレッドデータ検索システム, jpnrd.com, (最終閲覧日: 2020年11月21日)。

Present situation of *Pogonia minor* in Mt. Hoonji.

Masamitsu TADA and Chieko SAKURAI

Abstract

The Present situation of *Pogonia minor* was investigated at Mt. Hoonji, Katsuyama City, Fukui Prefecture. A total of 106 individuals, flowering and non-flowering together, were confirmed there. This becomes the second site with confirmation information so far in Fukui. It is considered necessary to conduct continuous investigation in order to preserve this species.

Key words

Pogonia minor, endangered species, Mt. Hoonji.